

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【穀物、北海道農政事務所】

北海道 道北なよろ農業協同組合（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7～R9）

- 米穀・麦・大豆のカントリーエレベーターについて、**既存施設の活用・増強**を図ることで、施設整備にかかるコストを抑え、**生産者の負担を最小限にとどめる**。
- 従来の機能に加え、**集出荷機能を大幅に改善**することにより、当JAにおける施設全体の**基幹的役割を担う多様な集出荷形態に対応可能な施設へ改修**。

現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 小麦、大豆、水稻（もち）の3品目は、施設利用率がほぼ100%に達しているが、**農機の高性能化に伴う搬入時期の集中化に十分対応ができず**、搬入待機の長時間化や出荷規制による収穫・出荷の長期化により、**生産活動に支障**をきたしている。

【再編集約等の内容】

- **受入ライン及び貯蔵能力を増強**した基幹的な穀類乾燥調製貯蔵施設をJA施設全体の補完施設として、**どの出荷形態にも対応**できる施設として運用する。



規模拡大抑制要因の解消により、今後も増加する土地利用型作物へ対応が可能になる

再編集約・合理化等で期待される効果

- 生産拡大が見込まれる**土地利用型作物（小麦、大豆、水稻〈もち〉）への対応が可能**となり、産地の受け入れ体制を強化できる。
- **2品種同時受入**や計量スピードの向上、貯蔵能力の増強などにより、基幹施設として施設全体の補完機能を備えることで、**生産者の多様な出荷体制に対応し、利用形態の変化にも柔軟に対応**でき、利便性の向上が図られる。
- 生産者の**作付面積の拡大**にも十分対応が可能となる。
- 既存施設を活用した再整備により、新設と比べてコストを抑えられるほか、**施設の長寿命化**によって、他施設の老朽化状況を踏まえた地域全体での再編や広域化の検討が可能となり、より**効率的な施設運営が期待**できる。
- 労働時間の削減、品質管理の高度化、物流効率の向上、JA外の営業倉庫の利用削減等による**経営の効率化が期待**される。

他産地へのメッセージ

- 既存施設の改修増強に向け、非常に有効な事業ではあるが、新設よりも改修範囲に制限があるため、その中で将来的な展望も含め十分な検討が必要。
- 計画策定時は新規事業として提出期限が短い中ではあったが、計画策定前より、意向を行政に伝え、JA役員・各生産組合・施設従業員との意見交換も実施し、施設に係わる関係者の意向を組んだ形で、取り進めたため、産地における合意形成はスムーズな展開が行えた。